

# 平成 21 年度 佐賀県こどもUD作品コンクール 入賞作品集

---



入賞者一覧

区分	部門	学校	学年	氏名	頁
大賞 (知事賞)	アイデア作品	唐津市立納所小学校	6年	中山 愛	1
	ポスター ・壁新聞	武雄市立東川登小学校	4年	山北 朋香 山口 紗季	2
		神崎市立神崎中学校	2年	牟田口 彩	3
	作文	基山町立基山中学校	1年	空尾 卓也	4
優秀賞	アイデア作品	佐賀市立赤松小学校	6年	野見山 莉子	5
		嬉野市立嬉野小学校	4年	中島 祐希子	6
		唐津市立納所小学校	6年	中山 大地	7
		県立牛津高等学校	3年	末次 将 満岡 大貴 諸隈 祥平	8
		県立牛津高等学校	3年	牟田口 遥香	9
	ポスター ・壁新聞	嬉野市立嬉野小学校	4年	藤野 つたえ	10
		武雄市立東川登小学校	4年	中尾 栞 古瀬 萌子	11
		武雄市立御船が丘小学校	5年	片淵 将太	12
		上峰町立上峰中学校	1年	百武 澪香	13
		神崎市立神崎中学校	1年	沖元 辰紀	14
	作文	佐賀市立諸富南小学校	4年	江嶋 美咲	15
		基山町立基山中学校	3年	大島 将吾	16
		嬉野市立嬉野中学校	3年	三根 礼子	17
		県立鹿島実業高等学校	3年	西村 将人	18
		県立鹿島実業高等学校	3年	山崎 陽平	19

知事賞

「ひっかけわっか」

唐津市立納所小学校 6年:中山 <sup>なかやま</sup> <sup>あい</sup> 愛



知事賞

「UDいろいろ新聞」

武雄市立東川登小学校 4年: <sup>やまきた</sup>山北 <sup>ともか</sup>朋香  
<sup>やまくち</sup>山口 <sup>さき</sup>紗季

メンバー  
山北 朋香  
山口 紗季

# UDいろいろ新聞

いろいろな人に役立つUD

★お年よりや小さい子どもなどのせの低い人に役立つUD

電気スイッチやボタンなど

- ・お年よりや子どもはせが低いから少し低くする。
- ・せの高い人は低い所はつかいにくいから 少し高くする。(2つつける) 点字

★目の不自由な人に役立つUD

点字

- ・目の不自由な人はたとえばトイレなら男女をまちがえるかもしれないから、点字をつける。
- ・目が見えぬ人は点字があれば、どこかよく分かる。

●点字が小さか。たらさわりにくい。  
 だからなるべく大きくする。  
 ●いろいろな人が使えるべん利なUDをあげていざましよう。

車いす

- ・車いすの人はエレベーターを使うといい。
- ・スロープは川いけと坂だと上るときとおりるときは乗りすは動かすにくい。
- ・コンロントなどが下にあるところんでしまう。

だからコンセントはエレベーターのボタンと同じで車いすの人と同じ高さにする

車いすはと。ても上りおりがたいへん。  
 感想

車いすの人たちは、こんなたいへんなことでもくろうしてがんばっていることが分かりました。そして車いすに乗っている人たちをこれからおうえんしてこまっていたら、手伝ってあげたいと思います。

これはスロープ。

これは車いすに乗って体験している所。

とをめまもでこ  
 なえんつにりにすれ  
 すまなけ2まはは  
 す人てつす。高小電  
 かもみボ。いさ気  
 う使とソといホ  
 ん た のこチタ  
 ン

これ  
 み少ととすれ  
 るしきつ。は  
 と高にて車コ  
 べく転はリン  
 べんし、ぶすせ  
 利てか使のン  
 らうト  
 にて

知事賞

「改善点はどこ？」

神崎市立神崎中学校 2年 <sup>むたくち</sup>牟田口 <sup>さや</sup>彩



## 知事賞

## 「障害者も一緒に遊べるゲーム」

基山町立基山中学校 1年: <sup>もくお</sup>空尾 <sup>たくや</sup>卓也

僕の母は全盲です。そのため、我が家には母が使えるように工夫されているものがたくさんあります。洗濯機や炊飯器の操作ボタンには点字がついているので、主な操作は母独りで行うことができます。また、携帯電話やパソコンには、画面に表示されている文字や文章を読み上げてくれるソフトが組み込まれているので、インターネットやメールが不自由無く楽しめます。

そのような中で、僕が最も気に入っているものはオセロゲームです。これは普通の店でも売られています。オセロ板の中に玉が組み込まれていて、玉の端を軽く押すと白と黒を簡単に返すことができます。さらに、黒の面は触るとざらざらしていて、目が見えなくても色が判断できるように作られています。母はかなり強いので、僕はいつも真剣勝負をしています。このような少しの工夫で、家族みんなで楽しめるゲームは他にもあります。例えば、ウノやトランプにはカードに点字が貼ってあり、点字のマージャンシールなども売られています。

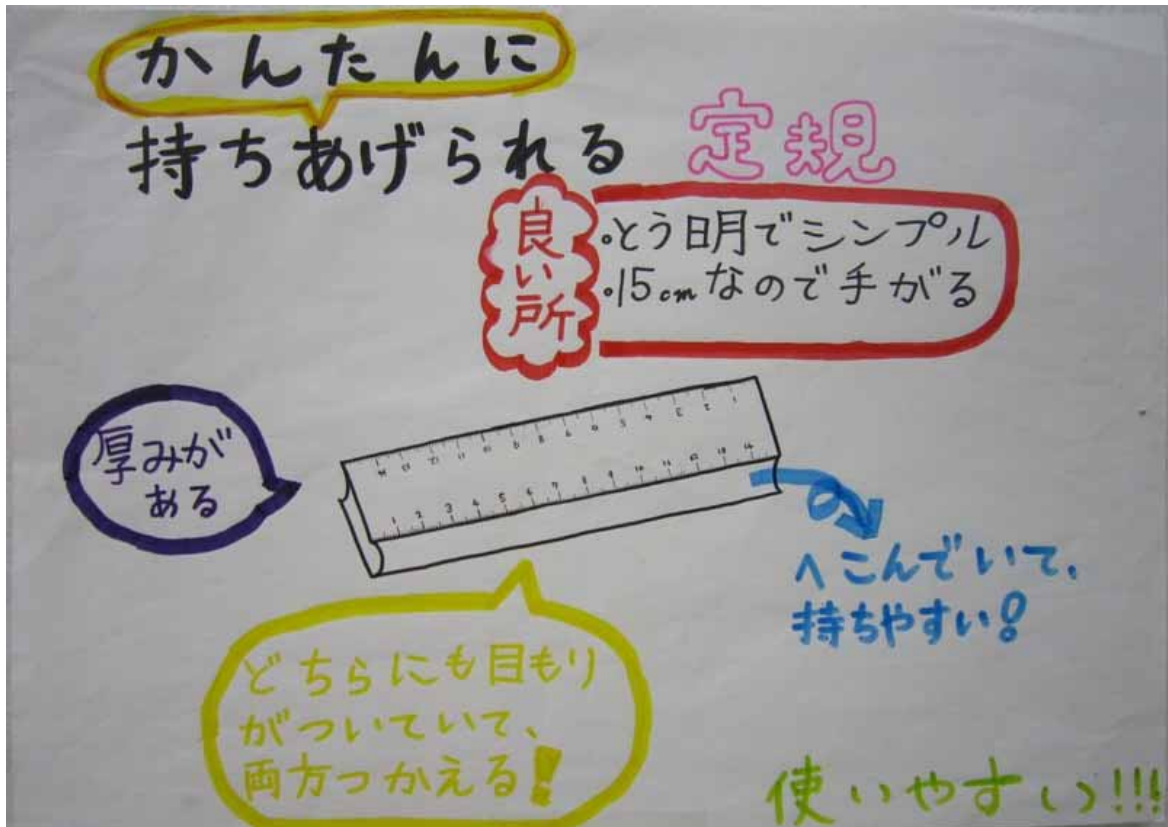
しかし、最近流行の携帯型ゲームや家庭用のゲームソフトの中に、母が楽しめるものはほとんどありません。世の中の技術は進んでいるはずなので、障害者でも楽しめるソフトがもっと開発され、発売されればいいのと思います。タッチパネルなど目が見えないと使えないような機能の代わりに、声を認識してゲームを進めたり、画面がどんな場面なのかを解説してくれる機能を付けるなどの工夫ができると思います。

本当の意味でのユニバーサルデザインは、障害を持った人たちの声を取り入れた、商品でなければならないと思います。そして、一日でも早く、一人でも多くの人々が遊べたり、楽しめたりできるゲームが開発され、家族でもっと楽しむ事ができたらいいなと思います。

優秀賞

「かたんに持ちあげられる定規」

佐賀市立赤松小学校 6年<sup>のみやま</sup>野見山<sup>りこ</sup>莉子



優秀賞

「UDポスト」

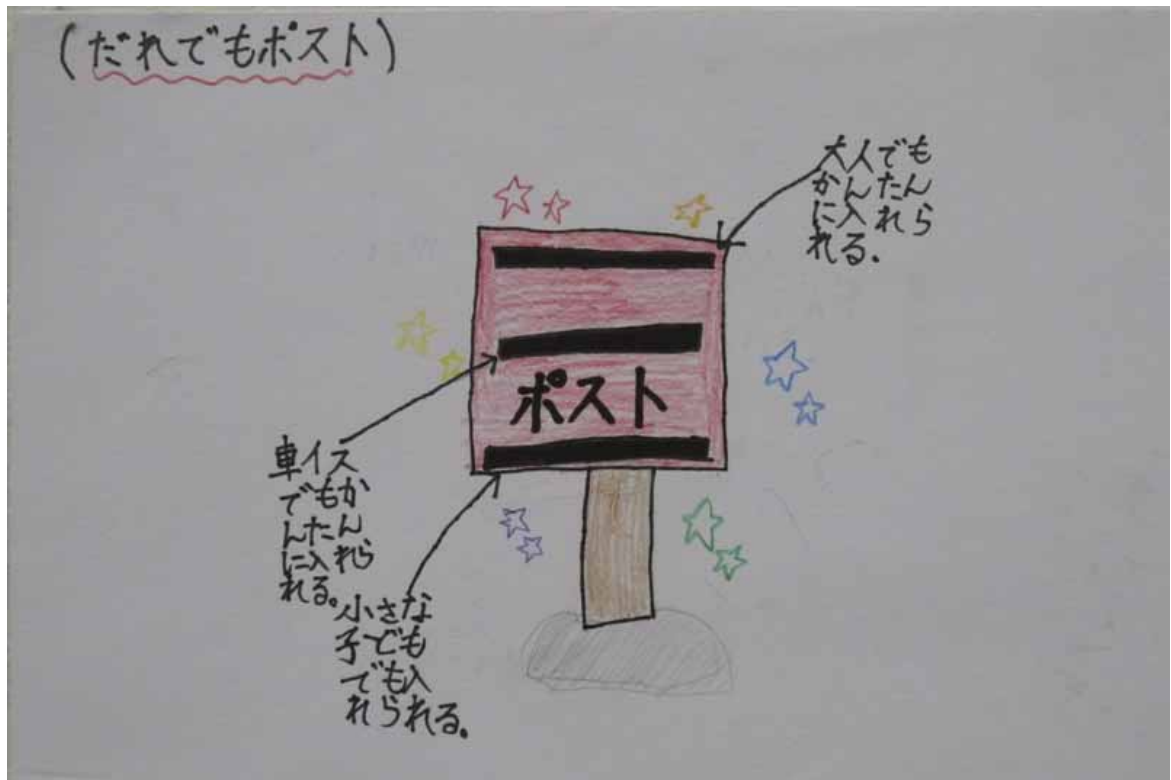
嬉野市立嬉野小学校 4年: <sup>なかしま</sup> <sup>ゆきこ</sup> 中島 祐希子



優秀賞

「だれでもポスト」

唐津市立納所小学校 6年 <sup>なかやま</sup>中山 <sup>だいち</sup>大地

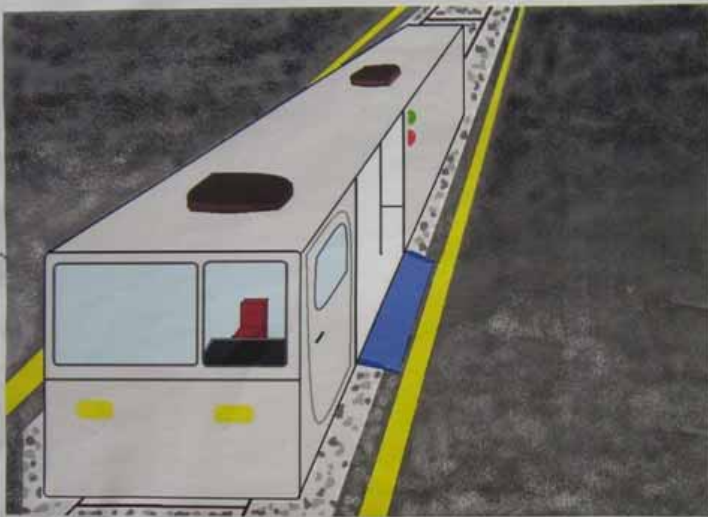


優秀賞

「誰でもラクらくノンステップトレイン」

県立牛津高等学校 3年 <sup>すえつく</sup>末次 <sup>しょう</sup>将  
<sup>みつあか</sup>満岡 <sup>だいき</sup>大貴  
<sup>もろくま</sup>諸隈 <sup>しょうへい</sup>祥平


誰でもラクらくノンステップトレイン



特徴

- ① 駅に停車後、音声とランプが点灯し、緑ランプ点灯時、人の出入り可能で、赤ランプ点灯時はスロープが自動で出し入れされる仕組み。
- ② スロープはすべり止めカゴエ
- ③ 電車とホームとの危険な段差と溝の解消
- ④ スロープの左右に脱輪防止エッジ(5~10cm)をつける。

ノンステップトレイン普及によって…  
高齢者の方や車イスの方でも1人で乗れ、自立を促す。  
また、電車とホームの溝を解消し、安全面にも考慮。



優秀賞

「Xのり(にぎりっこ)」

県立牛津高等学校 3年: 牟田口 遥香 むたぐち はるか







優秀賞

「点字ブロックにおかないで」

武雄市立御船が丘小学校 5年 片瀨 将太<sup>かたふち しょうた</sup>



優秀賞

「笑顔」

上峰町立上峰中学校 2年: ひゃくたけ百武 みおか 澪香



優秀賞

「点字は見えない心の文字」

神崎市立神崎中学校 1年: おきもと 沖元 たつのり 辰紀



優 秀 賞

「ユニバーサルデザインについて」

佐賀市立諸富南小学校 4年<sup>えしま</sup>江嶋<sup>みさき</sup>美咲

私は、こうれいしゃたいけんや目がふじゆうな人や、車イスたいけんをしました。こうれい者たいけんは体がおもくて、目がぼやけてて、大豆や細かい物をかんたんにつかめませんでした。目がふじゆうな人はまえやうしろ、右、左全部まっくらで光一つもみえませんでした。ガイドさんがついててもコワカッタです。車イスたいけんは、さかやだんさをのぼるときや、おりるときはとってもこわくてだんさや、そうゆうときに車イスをじぶんでもちあげることが手がいたくてきつかったです。ユニバーサルデザインは小さい子どもおとしよりの人にとってもべんりなものだとおもいました。車イスをもち上げるときだんさにななめの木をおいてだんさをなくすものをつくったらいいとおもいました。

そのほかにふじゆうなひとや小さい子どもをたのしくさせるためにユニバーサルデザインはいいんだ!!っと思いました。ユニバーサルデザインは、こまっている人やしょうがい、ひがいをもってる人をたすける役めにとってもいいんだなーと思いました。わたしたちもこまっている人や小さい子どもをたすけて、たのしくさせたいなーとおもっています。もしわたしが目がみえなかつたり車イスで活動するようになったらユニバーサルデザインはいいとおもいます。だからこまってる人をたすけて、わたしもユニバーサルデザインみたいにみんなの役にたちたいです。

優 秀 賞

「ユニバーサルデザイン」

基山町立基山中学校 3年:大島 <sup>おおしま</sup> <sup>しょうご</sup> 将吾

ユニバーサルデザインと聞いて小学校の頃の自分は、ユニバーサルスタジオジャパンの事しか考えなかった。テレビなどで時々聞いた事はあったのだが気にもしなかったのだ。そんなアホな考えを持ったまま中学に入学し一年生になり、二年生になり、三年生になった時、社会の公民でユニバーサルデザインについて教わった。

障がい者にもふつうの人にも使えるものということを知った時には正直言っても無理じゃないかなと思った。教科書を見るとそこにはユニバーサルデザインのさじがあった。それを見てなっとくした。本当に誰でも使えるそうなのだ。今までユニバーサルスタジオジャパンの関係したものだと考えていた自分が恥ずかしくなった。

障がいを持っていない人であってもこれは使いにくいな、などと感じたことがあります。そんなものが世界にゴロゴロしているようでは障がいを持った人が楽しく生活するなどといったことが出来るはずがありません。そこにユニバーサルデザインが現れたのですが、まだまだユニバーサルデザインは大きくは広がっていません。僕はユニバーサルデザインを広げたいです。エコ活動などでも同じですが、自分は関係ねえなどと思っている人がいるかぎり、ユニバーサルデザインは、ユニバーサルデザインの名がついたままで終わってしまうと思います。僕はユニバーサルデザインとか呼ぶのではなくてユニバーサルワールドに変わって、ユニバーサルデザインは常識となり、もうユニバーサルデザインとは呼ばれなくなるくらいまでなってほしいのです。まだまだユニバーサルデザインはユニバーサルデザインです。ユニバーサルデザインがあたりまえになっている日がはやくやってくるように僕は僕に出来るなにかをやっていきたいと思っています。

優秀賞

「不自由な人がいなくなるために」

嬉野市立嬉野中学校 3年:三根 礼子<sup>みね れいこ</sup>

私の住む嬉野市には、たくさんの自然があって地域の人々との交流も深い、ほのぼのとした町です。でも、老人ホームに入りたくても入れない人がいることが現状です。そんな中、私の家の周りにはお年寄りの人が車イスを使うことで不自由する所がいくつかあります。

一つ目は、自動販売機です。車イスに座ると、視線が低くなります。そんな時、自動販売機は上の方にボタンやお金を入れる所があるので、届きません。だから、下の方にボタンやお金を入れる所を置くことで、買う時に不自由することなく選ぶことができます。そして、自動販売機の高さを低くすることで、もっと買いやすく選びやすくなります。

二つ目は、歩道や道路です。嬉野の歩道は比較的狭く、自転車の人とぶつかりそうになります。車イスでも危ないと思う所があります。特に裏の道路は幅が小さいため、歩行者と車がとても近い距離になることがあって、私もびっくりして、ぶつかりそうでこわいなと思いました。車イスだと、もっと危ないと思ったし、小さい子どもや目が不自由な人は大丈夫なのかと思いました。

三つ目は、店の出入りです。嬉野には、段差がある店がまだまだあります。ループや手すりが付いている所もあるけど、段差がある所は私もつまづいてこけそうになったことがあります。足が不自由な人や、目が不自由な人はケガすることがあるし、出入りがとても大変だろうと思います。私の家にも付いていないけど、肩を貸したり支えたりしているので、少しは楽になっていると思います。店の中の通路がもう少し広くなるともっと行き来しやすい店になると思いました。

私の町には、不自由な所がいくつかあります。でも、その不自由さがなくなるくらいの優しさがあふれています。不自由さを解決するのは、ものだけではありません。周りの人の親切な行動や優しさでなくすことができると改めて気づきました。私の家では、近所に住んでいるけどなかなか来ることができない人には、電話で注文してもらって品物を家まで届けています。そんな、ささいなことでもいいと思います。今の嬉野は、たくさんの優しさで包まれています。もっともっと住みよい町を作るには、ものだけでは足りません。ただ設置するだけでなく、周りの人の温かさがあるからこそ不自由な思いをする人が減っていくと思います。私も今よりも周りをよく見て行動していきたいと思います。嬉野、佐賀県がもっと住みやすい場所になるように、まずは行動していこうと思います。

優秀賞

「ユニバーサルデザインとは」

県立鹿島実業高等学校 3年<sup>にしむら</sup>西村 <sup>まさと</sup>将人

ユニバーサルデザインは、障害をもっている人だけでなく、すべての人が使いやすく考えてあり、とても便利なものだと思います。身近なところにもユニバーサルデザインの商品などが目につくようになってきました。最近では、コンピューター関係が発達し操作が難しい商品も増えています。とても便利なものでも使い方が分からないものでは、意味がないので、便利で簡単な商品 UD の商品を企業をはさらに考えていかなければならないと思います。

町の中でも側溝のふたの網目が細くなっていたり、道幅が広くなったりと工夫がみられています。公共の施設にも駅の改札口が広がったり、電話台の高さが違っていたり、低床式のバスなどもでてきています。不自由な人が、助かるのはもちろん健康な人もその工夫が見えて助けられます。今の世の中は、いろんな障害をもった人や体が弱くなっている老人もたくさんいます。その人達も健康な人と同じような生活が送れなければ平等ではないと思います。その人達が同じような生活ができるように周りの人はユニバーサルの考え方をもっととり入れていかなければならないと思います。そうすることで、障害をもった人の不安や危険もとり除くことができ、もっと良い世の中になるとと思います。

家の中や町の中には、まだまだ知らない工夫がしてあると思います。企業は小さな工夫を積んで、みんなが使いやすい便利なものを提供して行って欲しいと思います。健康で何でも自分で出来る人は、ユニバーサルデザインは、障害者や高齢者が使用するものだと決めつけている人がほとんどだと思います。その健康な人にもユニバーサルデザインの良さを伝えていかなければならないと思います。差別がない世の中にし、障害をもった人達も家の中に引きこまず、思いきって町に出かけられるような環境作りを目指していかなければならないと思います。このようなことが完璧になってくれば、世界のいろいろな人にも日本の良さを伝えて、ユニバーサルデザインが世界どの国にも繁栄していけたらいいと思います。

優秀賞

「UDの良さを知ってもらう」

県立鹿島実業高等学校 3年:山崎 陽平<sup>やまさき ようへい</sup>

私達が普段、何かをする時に、いつも通り簡単にこなしながら生活をしているのがほとんどだと思う。しかし、それが出来ない人が増加している。現在、日本は、少子高齢化が進んでいるため、動きづらく体の弱った人が多くなっていると聞いた事があります。

一年前私は、インターンシップという職場体験で老人ホームに行きました。

そこには、利用者の方がスプーンや、フォークを持ちやすいように取手にスポンジをつけて、持ちやすくしたり、利用者の方が使いやすいようなデザインで私はとても感心しました。

また、何度か授業でユニバーサルデザインに触れて、使いやすさを体験してみました。

すると、あるのとないのでは全然違い、本当に使いやすくて、ある疑問を持ちました。

それは、どうしてこんなに使いやすいのに店では、普通に使っているスプーンやフォークが売られているだろうと思いました。

結局、答えが見つからないまま過ぎていきました。自分なりに考えてみたら、赤ちゃんには大きすぎて持てないとか、取手を消毒しないといけないなどの答えが出てきました。

また、自分で、こんなユニバーサルデザインがあったらいいなと思い、考えてみました。

例えば、ドアの所にボタンがあり、押したら開くなど、考えれば考えるほどたくさん出て、とても楽しかったです。

また、現在この日本は、「自動」というのをよく利用しているなと思いました。今ではもう欠かす事の出来ない道具になってしまいました。確かに人の力を使わず自動で動くから便利ではあるが事故も実際に起こっている。

例えば、エレベーターのドアで手を挟んだり、エスカレーターで隙間に挟まったりと、様々な事故があります。さらに、機械は事故が起こっていても停まったりしません。

という面で、「自動」とは本当に便利だと言えないような気がしました。

つまり、ユニバーサルデザインは、ただみんな使いやすい、便利だと言うのではなく、きちんと、人の手で優しく作られて、絶対に事故などの危険がなく安心して使う事のできる道具こそが、ユニバーサルデザインだと私はこのUD 作品コンクールを通して学ぶことができ良かったと思いました。今後、どんどんユニバーサルデザインが普及したらいいなと思いました。